

## 利尻島におけるクジラ類漂着記録 (1997-1998)

佐藤雅彦\*・山田 格\*\*

〒 097-0311 北海道利尻郡利尻町仙法志字本町 利尻町立博物館\*

〒 169-0073 東京都新宿区百人町 3-23-1 国立科学博物館\*\*

### Stranding records of whales from Rishiri Island (1997-1998)

Masahiko Sato\* and Tadasu Yamada\*\*

Rishiri Town Museum, Senhoshi, Rishiri Is., Hokkaido, 097-0311 Japan\*

National Science Museum, 3-23-1 Hyakunin-cho, Shinjuku-ku, Tokyo 169-0073 Japan\*\*

1997年10月から1998年2月の冬期間、以下のクジラ類3種類が漂着したので報告する。利尻島におけるこれまでのクジラの漂着記録は、「国立科学博物館海棲哺乳類漂着データベース」によると1件しかなく(岩島秀夫氏報告;メソプロドン、1993/1/5、利尻町杓形字種富町)、頭骨標本などが残されてきたことはなかった。文献記録では、本泊(1900年)、蘭泊(1907年)、仙法志(大正時代末)、杓形(1934年)などでの漂着があるようだが、その詳細は不明である(西谷、1993)。

なお、オウギハクジラ属は成熟雄以外の同定が非常に困難なため、筆者の一人である山田が頭骨標本を国立科学博物館にて作成し、同定した。今回漂着した3個体の標本はすべて利尻町立博物館にて保存する。

標本の処理には利尻町役場水産課、稚内保健所利尻支所、利尻郡清掃施設組合ごみ焼却場、佐々木ひろみ氏(利尻町)など多くの方のご協力をいただいた。ここに深く感謝の意を表したい。

### アカボウクジラ科 Ziphiidae

#### ツチクジラ

##### *Berardius bairdii*

1997.x.21、利尻町杓形新湊、漂着(腐敗死体)。

性別不明。全長8 m。

時化により海岸に漂着(第一発見者:新浜秀一氏)。頭部と腹部の損傷が激しく、内蔵は露出し、大きく二つ折りの形で打ち上げられる。腐乱も進んでおり、体表面は真っ白になっていた。

標本番号:RTMM123(頭骨、および舌骨の一部など)。

#### オウギハクジラ (Fig. 1-5)

##### *Mesoplodon stejnegeri*

1998.ii.16、利尻町杓形種富町、漂着。

♀。全長5.1 m、最大胴幅2.7 m。

高橋トシ氏と成田 薫氏が死亡個体を発見。引き上げるのが困難なため、翌日杓形の漁港まで和船にて輸送し、ブルドーザーで引き上げ、最終処分場にて埋葬した。腹部の状態から胎児がいた可能性もある。

標本番号:RTMM124(頭骨のみ)。



Fig. 1. 漂着したオウギハクジラ♀

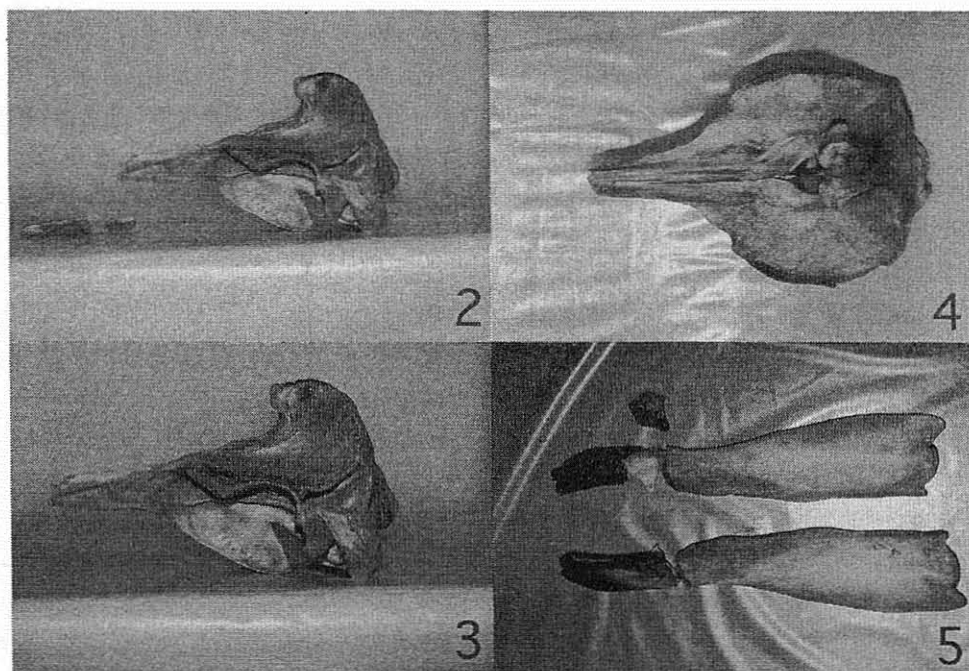


Fig. 2-5. オウギハクジラの頭骨標本(RTMM124). 2. 側面全体 . 3. 側面 . 4. 背面 . 5. 下顎 .

ネズミイルカ科 Phocoenidae

ネズミイルカ

*Phocoena phocoena*

1998.iii.16、利尻町仙法志神磯、漂着 (死体)。

性別不明。全長 131cm、左胸鰭前縁長 20cm、左胸鰭後縁長 14cm、左胸鰭最大幅 7cm、尾鰭幅 26cm、背鰭最大幅 18cm、歯は上顎に 51 本、下顎に 44 本。

内臓などはほとんどなく、頭部は白骨化している状態で浜に打ち上がっていた (第一発見者：村谷

邦彦氏)。

標本番号：RTMM122 (前腕骨と下顎骨以外のほぼ全身の骨格)。

参考文献

大隈清治 (監修)、1991. クジラとイルカのフィールドガイド. 東京大学出版会. 148pp.

西谷栄治、1993. クジラそれともイルカ. 博物館情報、71 号.